

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

平成29年度病虫害防除情報第2号

斑点米カメムシ類の発生状況についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

斑点米カメムシ類の適切な防除を行いましょう。

- 1 作物名 早期水稲
- 2 病虫害名 斑点米カメムシ類
- 3 発生状況

- (1) 6月中旬の巡回調査における早期水稲での生息密度(20回すくい取り)は、発生面積率45.2%(平年15.0%、前年28.2%)、すくい取り虫数1.2頭(平年1.6頭、前年0.8頭)で、発生面積率は平年より多、すくい取り虫数はやや多となっている。
- (2) 6月上旬の水田周辺におけるイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度(20回振りすくい取り)は、成・幼虫合計で66.3頭(平年37.6頭、前年45.2頭)であり、平年より多となっている(表1)。
- (3) 種別では、ミナミアオ、ホソハリ、アカスジカスミカメムシの生息密度が平年よりも高く、シラホシカメムシがやや多、クモヘリカメムシは平年並みとなっている(図1、2)。

表1 飼料作物における斑点米カメムシ類の種別平均頭数(6月上旬、20回振り)

	ミナミアオ	クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	シラホシカメムシ類	アカスジカスミカメ	全種合計
H29※	4.7	2.3	6.0	1.3	52.0	66.3
H28※	1.4	2.3	1.9	0.5	39.1	45.2
平年値	1.3	5.2	2.2	1.0	27.9	37.6

※調査地点数(H29):51地点(中部、南那珂、児湯、東臼杵管内)

※調査地点数(H28):91地点(中部、南那珂、児湯、東臼杵管内)

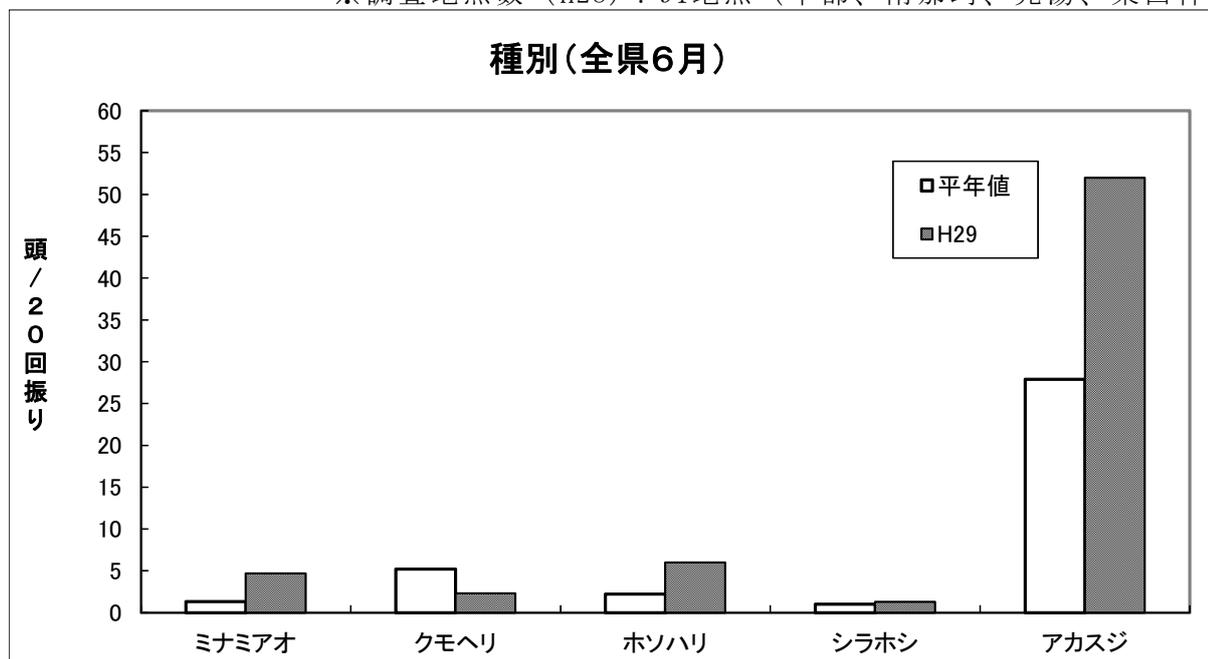


図1 種別平均頭数（6月上旬飼料作物、20回振り）

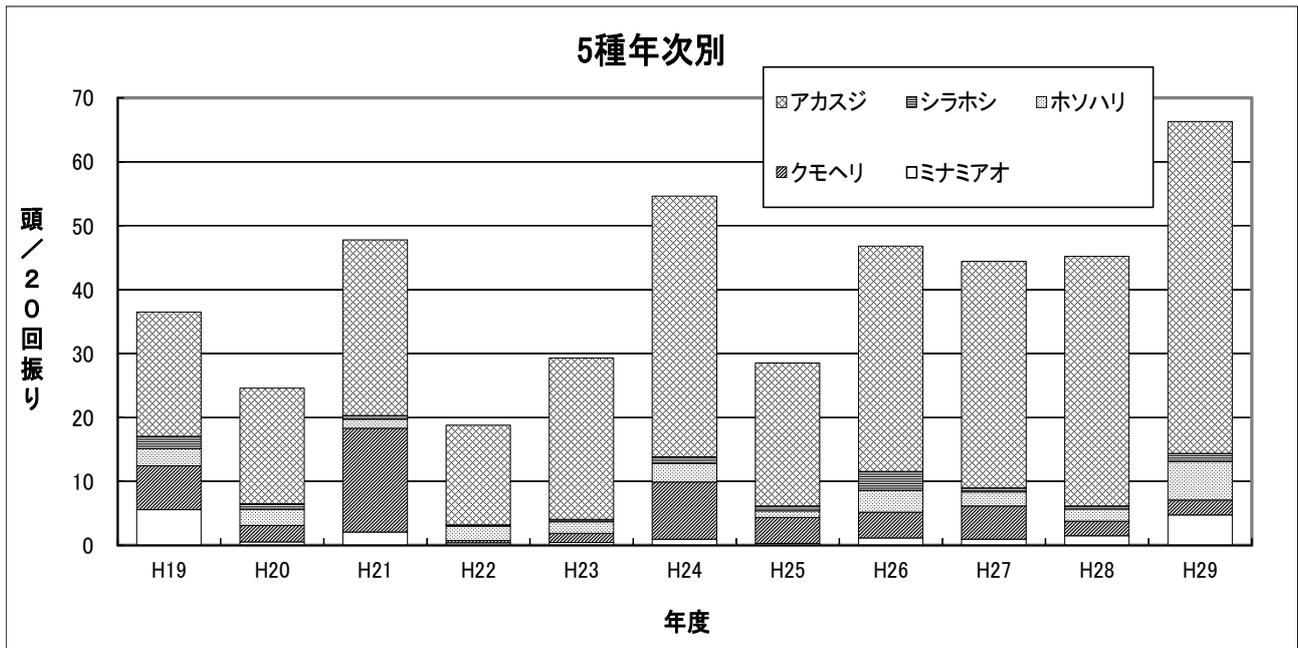


図2 年度別種別平均頭数（6月上旬飼料作物、20回振り）

4 防除上の注意

(1) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底する。その後も発生が見られる場合には、さらに追加防除が必要である。

(2) 広域の集団一斉防除に努め、防除効率を高める。

(3) 出穂の早い、または遅い水田には集中的に飛来するおそれがあるほか、ヒエがある場合は先に出穂するヒエにカメムシが集まる傾向があるので早めに処分する。

・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

・6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 黒木

Tel:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127

ホームページ: <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp